

**TPP と複数国間合意**  
**-グローバルなルール作りに向けて**  
for Global Trade Regime seminar

July 12, 2016

中富道隆

ジェトロ顧問

経済産業研究所コンサルティングフェロー

# 地域的枠組みとしてのTPP

-TPP合意で、メガFTAは夢から現実の世界に。

TPPは将来の世界通商レジームの基礎になるのか？→

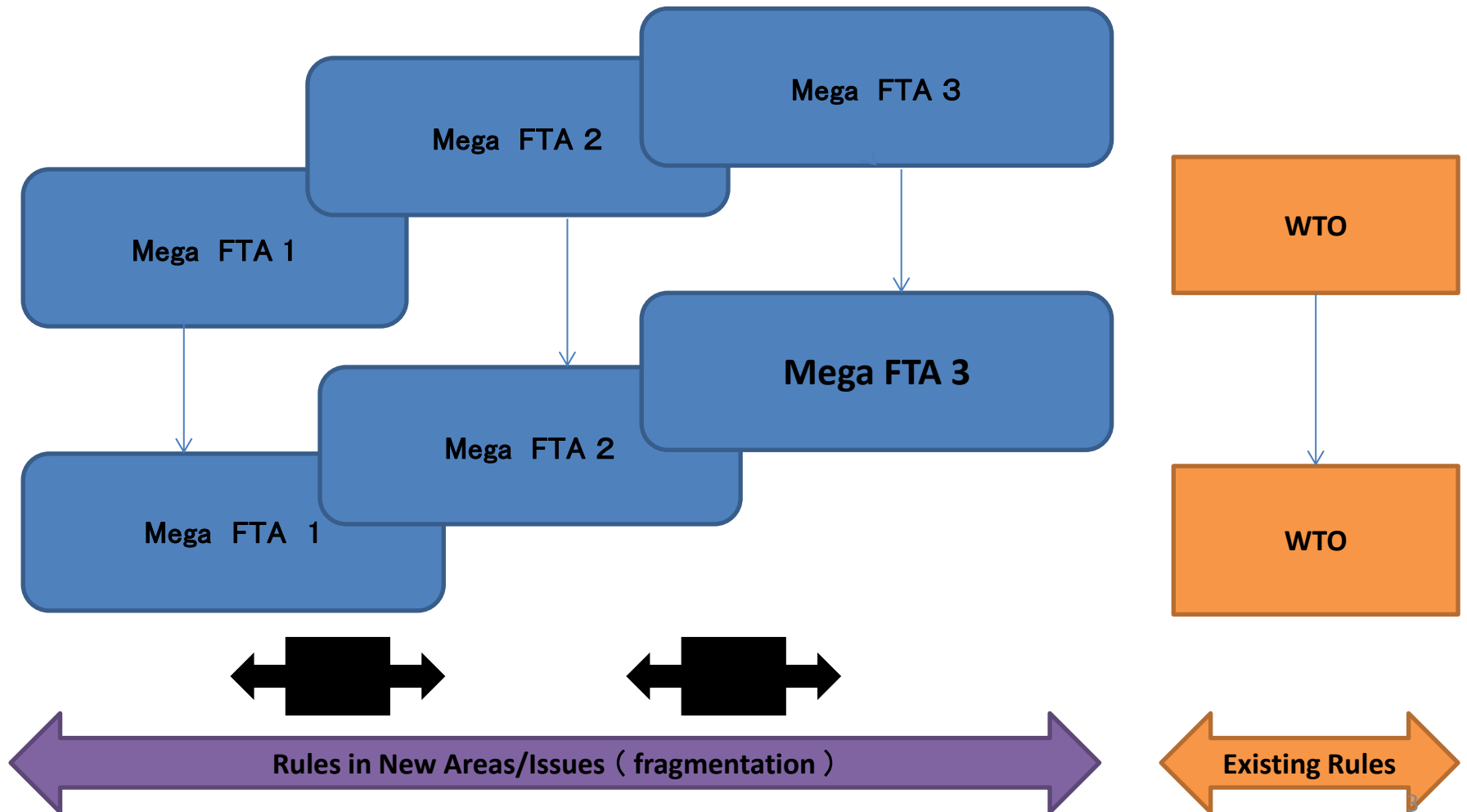
TPPは「深い」メガFTAであり、画期的な成果。今後の世界の通商レジームに大きな影響を与えることは確実。しかし……他方でTPPは、あくまでFTAであり地域的枠組み。

-TPPのルールが世界ルールになり、メガFTA間のルールの調和が成功するという保証はない。

-ルールのスパゲッティボウル現象は、TPP合意により世界通商システムの緊急の脅威に。

-TPPはグローバルバリューチェーン(GVC)やビジネスのニーズに対応し、参加国の調査作業の結果である多くの「深い」規律を含むが、問題は、非参加国の制度や慣行を必ずしも反映していないこと。

# ルールのスパゲティ-ボウル現象 (制度の分断化) See Nakatomi (2013a)



# 地域的枠組みとしてのTPP

## -典型例は**知的財産権 (IPR)**

知的財産の分野では、TPPの規律は、先例となる「模造品防止条約」(ACTA: Anti-counterfeiting Agreement)の結果と比較しても、職権調査、刑事手続き、「事前に定められた損害賠償」等の分野で、米国の規律に近い結論になっている。

-EUにとっては、TPPにおける知的財産の規律をそのまま受け入れることは、ほとんど不可能。**メガFTA間の知的財産規律の調和作業の着地点は、TPP以前に比較してより狭くなっている。**

-TRIPS協定に、MFN例外がないこと(及びミニマムスタンダードとしての性格)と相俟って、知的財産の将来の調和は更に困難に。

## 地域的枠組みとしてのTPP

- 複数のメガFTA(例 TPP、TTIP、RCEP、日中韓、日EU)の調和作業(あるいはルールの整合性維持)は、参加国及びその制度の違い、交渉スケジュールの違いを考えると、極めて複雑で時間のかかる作業。
- 先例としてのTPP合意そのものが、参加国のコミットメント故に、柔軟な調和作業やルールの統一化の重大な支障となる可能性あり。
- ルールのスパゲティーボウルは、世界通商システムへの脅威。

# 複数国間合意の活用

## -TPPから世界ルールへ

- 最善のシナリオは、WTOでの多角的交渉で、重要案件・分野についてコンセンサスベースで、世界的な解決策を探ること。しかしながら、WTOとドーハラウンドの現実は、そのような理想とほど遠い状況。
- 短期的な解としては、多くの国がそうしているように、メガFTAを追求することが各国に実り多い状況。しかし持続的な解としては、**WTO改革**と、**FTAの結果のマルチ化**との双方が必要。
- メガFTA競争のみに走ることは近視眼的であり、相互に矛盾した、分断化した、複数の通商レジームを作り上げる虞れ。→これは、ビジネスとGVCにとり正に悪夢。
- TPPの結果は、参加国は既にハイレベルの自由化と規律にコミットしているので、特定のイシュー・分野で複数国間合意を生み出す可能性あり。**

# 複数国間合意の活用

## -TPPから世界ルールへ

-そのカギとなるのは、TPP非参加国を含めて「クリティカルマス」(十分な参加国)を実現できるか、また、合意の結果をMFN(最恵国待遇)ベースで交渉非参加国に均てんできるかどうか。

MFNを伴うイシューベースの複数国間アプローチは、多国間通商ルールへの途を拓く途として活用可能。

-ITA(情報通信合意)の拡大交渉成功は、複数国間合意への動きに刺激を与えるもの(環境財の自由化交渉も同様。)

ドーハラウンド交渉停滞下で、複数国間アプローチは、自由化とルール作りの主たる手段となる可能性あり。

-仮にそうならないとすれば、WTOでのルール作りが困難に直面する一方で、メガFTAを含めたFTAが更に台頭し、ルール作りの主役となり、多角的通商レジームの更なる浸食が進行。

(See Baldwin Nakatomi(2015) for the problem)

## TPPを基礎として考えられる複数国間合意

- クリティカルマスとMFN均てんとを柱とする複数国間アプローチは、メガFTA間の困難な調和作業より、遙かに効率的に、メガFTAの規律を多国間の規律とする(マルチ化)途。
- TPPの分析は、TPP参加国・非参加国双方に、将来の複数国間合意についての様々な糸口を与えてくれる。
- 検討すべき分野として、例えば、知的財産、投資、国営企業、電子商取引、原産地規則(例えば、完全累積や自己認証スキーム等)、規制調和等があり得る。



# TPPを基礎として考えられる複数国間合意

-こうしたイシューの選択とクラスター作りに当たっては、**複数イシューの複数国間交渉も可能**。(Nakatomi (2013a) 参照。

ISCA (international Supply Chain Agreement)を提案)

GVCとビジネスの現実に対応し21世紀の課題に取り組むには、イシューを一つ一つ扱うのでは、時間がかかり効率が悪い。交渉資源にも限界あり。

-複数国間アプローチの成功のカギは、課題・アジェンダの選択とクリティカルマスの確保、そしてMFN均てんにある。

**TPPは、その参加国・非参加国を問わず、我々が今後取り組むべき分野について、多くの糸口やヒントを与えてくれる。**

# References

- Baldwin, R. and M. Nakatomi (2015), "A world without the WTO: what's at stake?," CEPR, Policy Insight No. 84, July 2015, [http://www.cepr.org/active/publications/policy\\_insights/viewpi.php?pino=84](http://www.cepr.org/active/publications/policy_insights/viewpi.php?pino=84).  
(抄訳) 「WTOなき世界:何が問題なのか?」, RIETI スペシャルレポート  
[http://www.rieti.go.jp/jp/special/special\\_report/085.html](http://www.rieti.go.jp/jp/special/special_report/085.html)
- Hoekman, B (2014), "Supply Chains, Mega-Regionals and Multilateralism A Road Map for the WTO", CEPR Press.
- Low, P. (2011), 'WTO decision-making for the future', World Trade Organization Staff Working Paper ERSD-2011-05, Geneva.
- Nakatomi, M. (2013a), "Global value chain governance in the era of mega FTAs and a proposal of an international supply-chain agreement," VoxEU Columns, 15 August, <http://www.voxeu.org/article/it-time-international-supply-chain-agreement>.  
(抄訳) 「メガFTAの時代のglobal value chain(GVC)ガバナンスとInternational Supply Chain Agreement(ISCA)提案」, RIETI スペシャルレポート  
[http://www.rieti.go.jp/jp/special/special\\_report/062.html](http://www.rieti.go.jp/jp/special/special_report/062.html)
- Nakatomi, M.(2013b), "Plurilateral Agreements: A Viable Alternative to the World Trade Organization?," Asian Development Bank Institute, Working Paper No. 439.
- Nakatomi, M.(2015), "Sectoral and plurilateral approaches in services negotiations: Before and after TISA", European Centre for International Political Economy, Policy Brief No. 02/2015.  
(日本語版) 中富道隆(2014), 「サービス交渉とプल्ली合意—TISAとセクターアプローチ」, 経済産業研究所  
<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/14020003.html>
- The Warwick Commission (2007), "The Multilateral Trade Regime: Which Way Forward?," The University of Warwick.
- World Economic Forum (2010), "A Plurilateral 'Club-of-Clubs' Approach to World Trade Organization Reform and New Issues".
- World Economic Forum (2012),. The Shifting Geography of Global value Chains: Implications for Developing Countries and Trade Policy, Global Agenda Council on Global Trade System, Geneva: World Economic Forum.
- World Economic Forum (2015), "High and Low Politics of Trade Can the World Trade Organization's Centrality Be Restored in a New Multi-Tiered Global Trading System?"  
[http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GAC15\\_The\\_High\\_Low\\_Politics\\_Trade\\_WTO\\_Centrality\\_report\\_2015.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_GAC15_The_High_Low_Politics_Trade_WTO_Centrality_report_2015.pdf)
- World Economic Forum (2016), (編集中)